

(特集：そこが知りたい！新人教育と日当直業務内容)

## 当院における初期ローテーション教育について

平木 一嘉

### The initial educational program for new technologists at the central clinical laboratory of Tokyo Women's Medical University Hospital

Kazuyoshi Hiraki

**Summary** We educate new technologists assigned to the central clinical laboratory during the initial educational program, which includes educational targets, achievement targets, and educational contents. After a certain period, they are assigned to special laboratories. During this period, I introduce the initial educational program and rotation system in our hospital, even though each facility has its own educational program. The concept of education is the different for each person or facility and there is no consensus it; moreover, the results are not seen immediately. Therefore, educators from each facility should develop a suitable education program based on their sense of values and educational policy.

**Key words:** Initial educational program, New technologists

#### I. はじめに

当院では中央検査部配属の新人技師に対し、2005年4月より初期ローテーション教育プログラムに沿った教育を行い、教育要綱(図1)の中に設けられた教育目標、達成目標、教育内容に沿って一定期間の教育を行ったのち、各検査室への配属を行っている。

現在までの12年間に、約60名の新人技師が初期ローテーション教育プログラムを経て各検査室に配属され、専門知識の習得ならびに各種認定の取得、ルーチン業務に活躍している。教育については、それぞれの施設により定められたプログラムが存在すると思われるが、今回は当

院における初期ローテーション教育プログラムについて紹介させていただく。

#### II. 育成委員会の設置

中央検査部 育成委員会の中に下記の委員会を設けており、それぞれに目的を持った教育活動を行っている。新人技師のローテーション教育には、主として初期ローテーション担当が当たる。

##### 1) 勉強会担当

検査技師としての資質向上を目的とした各種勉強会の立案と定期的な開催、ならびに予演会の開催なども行う。

東京女子医科大学病院 中央検査部  
〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1

Department of Central Clinical Laboratory, Tokyo  
Women's Medical University hospital  
8-1 Kawada-cho, Shinjuku-ku, Tokyo 162-8666,  
Japan

<p><b>(表紙)</b></p> <p><b>中央検査部</b></p> <p><b>初期ローテーション教育要綱</b></p> <p><b>育成委員会</b></p> <p><b>初版 2011年3月</b></p> <p><b>改定 2016年3月</b></p>	<p><b>(目次)</b> <span style="float: right;">目次</span></p> <p><b>I 中央検査部 教育要綱</b> <span style="float: right;">2</span></p> <p><b>II 共通事項</b></p> <p>1) 中央検査部組織及び検査概要 <span style="float: right;">3</span></p> <p>2) 病院内の患者の流れ <span style="float: right;">3</span></p> <p>3) 患者接遇 <span style="float: right;">4</span></p> <p>4) 感染制御 Infection Control <span style="float: right;">4</span></p> <p>5) リスクマネジメント( RM ) <span style="float: right;">5</span></p> <p>6) 病院情報システム <span style="float: right;">5</span></p> <p><b>III 各検査室</b></p> <p>1) 採血・採尿検査室 <span style="float: right;">6</span></p> <p>2) 心電図検査室 <span style="float: right;">7</span></p> <p>3) 腹部超音波検査室 <span style="float: right;">8</span></p> <p>4) 呼吸機能検査室 <span style="float: right;">9</span></p> <p>5) 脳波・筋電図検査室 <span style="float: right;">10</span></p> <p>6) 内視鏡室 <span style="float: right;">11</span></p> <p>7) 病理検査室 <span style="float: right;">12</span></p> <p>8) 輸血・細胞プロセッシング部 <span style="float: right;">13</span></p> <p>9) 検体検査室 免疫化学 <span style="float: right;">14</span></p> <p>10) 検体検査室 血液 <span style="float: right;">15</span></p> <p>11) 検体検査室 一般 <span style="float: right;">16</span></p> <p>12) 検体検査室 微生物 <span style="float: right;">17</span></p> <p>13) 検体検査室 LI・受付 <span style="float: right;">18</span></p> <p>14) 診療科支援検査室見学 ・救命救急 ・移植免疫 ・耳鼻科</p> <p><b>IV 関連資料</b></p> <p>1) 研修後評価シート(採血・採尿検査室) <span style="float: right;">19</span></p> <p>2) 研修後評価シートの評価基準 <span style="float: right;">19</span></p> <p>3) マナー申し送り表 <span style="float: right;">20</span></p>
---	--

図1 初期ローテーション教育要綱

2) マナー担当

生活態度、マナーおよび患者接遇など、検査技術以外の必要事項について指導する。また、マナー冊子等の編集も行っている。

3) 初期ローテーション担当

ローテーション予定作成と調整、ならびにそのサポートとコミュニケーション対応、その他、教育要綱の編集および改定、学生臨地実習の調整やサポート等も行っている。

**III. 中央検査部教育要綱について**

中央検査部教育要綱は下記のように教育目標、到達目標、期間、教育内容、評価から構成されており、それぞれの内容が明確に記されている。

各検査室の教育要綱も同様の構成になっており、初期ローテーション教育を受ける新人にとっては、何を目標として、何処を到達点とするのか、またそこでどんな教育を受けられるのかを明確に把握することができる。

各検査室の教育要綱一例として採血・採尿検

査室のものを紹介する (図2)。

1) 教育目標

医療技術専門職としての自覚を持ち主体的に学ぶ姿勢と、社会人・組織の一員としての姿勢を身につける。

2) 到達目標

中央検査部育成目標である「自己努力と協調性」を基に以下の到達目標を定めている。

- ①臨床検査の意義と必要性を理解する。
- ②各検査室の基本知識と基本技術を習得し、緊急臨床検査士の資格を習得する。
- ③医療チームの一員として中央検査部の役割と責任を理解する。

3) 期間

初年度4月より定められた期間で実施する。(現状12月末日まで、翌年より各検査室に配属)

4) 教育内容

中央検査部に初期ローテーション担当者をおき、下記の内容につき教育を行う。

- ①共通事項 (オリエンテーション)

検査概要、中央検査部組織、患者接遇、感染知識、病院情報システム、医療安全管理、院内の患者の流れなどを学ぶ。

②検査室ローテーション

新人技師は、初期ローテーション中は採血・採尿検査室に籍を置き、全員が採血技術の習得および採血業務を行う。またこの期間、数箇所の検体検査部門と生理検査部門をローテーションし実務を経験する（図3）。

③その他

- ・各検査室にマナー担当者置く。
- ・初期ローテーション中の定期的なミーティング開催とサポートを行う。
- ・施設見学と積極的に勉強会へ参加する。

5) 評価（図4）

- ①新人技師については、理解度の確認のため随時レポートの提出と研修後評価表による自己評価を行う。
- ②各検査室の教育担当者については、レポートの評価、研修後評価シートによる評価、及び申し送り表を提出する。

IV. 現状での期待と効果

当検査部は検体検査系（検査室数：8部門）、生理検査系（検査室数：7部門）、診療支援部門（検査室数：13部門）から成り、約200名の検査

技師が在籍している。

組織が大きくなると、検査技師間や検査室間でのコミュニケーションが非常に取りづらくなるが、最初から決まった検査室に配置せず、採血室という業務連携の高い検査室を経験することにより、その重要性を認識し、医療チームの一員として中央検査部の役割と責任を理解できる人材が育成されることは、極めて重要な教育の一つであると確信する。

また、初期ローテーション教育の期間に、数箇所の検体検査部門と生理検査部門をローテーションし実務を経験することで、医療技術専門職としての自覚を持ち主体的に学ぶ姿勢と、社会人・組織の一員としての姿勢を身につけるとともに、各検査室の基本知識と基本技術を習得することで、緊急臨床検査士の資格習得に挑戦することもできる。

更に、本教育期間中に築くヒューマン・コミュニケーションが、教育期間が終了し配属が決定した後まで、様々な業務状況の中で活かされて行くものと考える。

こうした取り組みにより、中央検査部育成目標である「自己努力と協調性」を養った人材が、現在では中央検査部全体の約3割に到達し、初期の研修者がそれぞれの配属先にて様々な資格を取得するなど中心的な存在へと育てて来ており、これからの5年、10年先の組織に大きな期

採血・採尿検査室	
1. 教育目標	2) 各論
1) 社会人としてのマナー及び相手の立場に立って物事を考える姿勢を身につける	① 受付
2) 採血技術を習得する	② 採血業務の手順
2. 到達目標	③ 採血容器
患者と適切なコミュニケーションがとれ、採血業務を迅速かつ正確に行える	④ 採尿について
3. 期間	⑤ 採痰について
定められた研修期間	⑥ 検体処理とバーコード処理
4. 教育内容	⑦ 伝票運用と診療科特性
1) 総論	⑧ 注意事項・他
① 服装と身だしなみ	3) 実技
② 接遇	採血手技
③ 全体の流れ(受付から終了まで)	4) その他
④ 患者急変時の対応について	障害時対応について
⑤ 感染対策	5. 評価
	中央検査部 教育要綱の5.評価に準じる

図2 各検査室の教育要綱一例（例：採血・採尿検査室）

【初期ローテーション】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
期間	4/5~5/29		5/30~7/16		7/17~8/29		8/30~10/20		10/21~11/24		11/25~12/28
1	H/K オリエンテーション	採血 5/8~5/17	心電図	採血 8/8~8/19	病理診断	採血 検査室見学	検体検査・輸血				
2	S/N インストラクション	採血 5/20~5/29	腹部超音波	採血 8/20~8/29	内視鏡	採血 検査室見学	検体検査・輸血				
3	S/T インストラクション	心電図 5/9~	採血 6/24~7/3	呼吸器	採血	検体検査・輸血		採血 検査室見学			
4	T/S インストラクション	脳波・筋電 5/9~	採血 7/4~7/16	腹部超音波	採血	検体検査・輸血		採血 検査室見学			

 次回研修検査室の準備期間  
 採血練習期間  
 他検査室の見学など  
 \*例年と同様に土曜日は採血・採尿室勤務とします  
 \*10月20日以降については後日決定します

図3 初期ローテーション教育予定表（例：平成25年度時）

採血・採尿 検査室		研修後評価シート		責任者	担当者			
研修者氏名:		研修期間: 年 月 日 ~ 年 月 日						
考課要素	達成目標	検査室設定項目	研修者記入欄	担当者記入欄				
教育内容	<input type="checkbox"/> 採血に関する基本知識を習得する <input type="checkbox"/> 病態と検査の関係を理解する <input type="checkbox"/> 採血室全体の流れを理解する	血管の走行及び採血部位の学習をする	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5				
		採血オーダーと採血管種について理解する	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5				
		検査受付及び検査案内票について理解する	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5				
実技内容	<input type="checkbox"/> 基本操作をマニュアルどおり行う <input type="checkbox"/> 機器操作・システムを理解する	採血方法・手順を理解し、実習する	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5				
		持参検体受け取り・手貼りラベル出力などができる	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5				
		検査情報がない場合の適切な対応ができる	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5				
情意 協調性	患者に検査技師としての対応ができたか		1・2・3・4・5	1・2・3・4・5				
	採血室で協調性をもって研修できたか		1・2・3・4・5	1・2・3・4・5				
	身だしなみを整え、まじめな態度で研修に臨めたか		1・2・3・4・5	1・2・3・4・5				
	積極的に質問をし理解することができたか		1・2・3・4・5	1・2・3・4・5				
	教えられたことを自ら進んで行うことができたか		1・2・3・4・5	1・2・3・4・5				
	学んだことを自己学習できたか		1・2・3・4・5	1・2・3・4・5				
検査室記入欄			コメント					
検査室 自己評価	マニュアルが整備、更新してあったか	1・2・3・4・5						
	教育は、本や症例を用いて具体的に説明できたか また参考資料の提示ができたか	1・2・3・4・5						
	担当者以外の技師も積極的な声掛けが行えたか	1・2・3・4・5						
	検査室全体に受け入れる姿勢があったか	1・2・3・4・5						

図4 研修後評価シートの一例（例：採血・採尿検査室）

待を寄せている。

## V. まとめ

教育への考え方は人それぞれであり、施設ごとに違って当然だと思う。画一的な正解があるわけではなく、結果が直ぐに見えないものだけに、それぞれの教育者や施設が、自分達の価値観と方針で作りに上げていくべきものではないかと思う。

「物質的な面では他の施設の真似ができて、

人という人材的な面においては、決して真似はできない…」は、以前何処かの教育セミナーで聞いた言葉ではあるが、やはり優れた人材の育成には、組織立った計画的な取り組みが必要だと考える。

来年、当検査部は生理検査系を含めたISO 15189の認定範囲拡大を予定している。これを機に、今後は初期ローテーション教育の経験を、ISOで規定されている教育記録や力量評価(QMS評価表)に反映できるような形にしたいと思う。